

【山崎主宰の俳句】

雪暗ぐれ

山崎 聰

徹頭徹尾昭和のかたち藁ぼつち

山査子の実てんてんまあただよ

黄落の吉野を出でてより無聊

空の青沖ゆく船の寒い青

逃亡の一瞬さびしき冬の森

十二月八日の朝の玉子焼

愚行いくばく耿耿と冬至の灯

耳立てて雪暗ぐれの街曲りけり

十二月るいるいと人厩から

神域はもとより昏く壺中梅